

修士論文（要旨）  
2021年1月

歯科衛生士学生が持つ認知症に関する知識に影響を及ぼす要因の分析

指導 鈴木 隆雄 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
219J6002  
浦野 瑤子

Master's Thesis (Abstract)  
January 2021

A Study on the Knowledge of Dementia and its Associated Factors among the College  
Students of Dental Hygiene

Yoko Urano  
219J6002  
Master's Program in Gerontology  
Graduate School of Gerontology  
J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Takao Suzuki

## 目次

第1章	はじめに	1
1.1	研究背景	1
1.2	研究の目的と意義	2
第2章	対象と方法	2
2.1	調査対象	2
2.2	調査方法	2
2.3	調査時期	2
2.4	調査項目	2
第3章	分析方法	3
第4章	倫理的配慮	3
第5章	結果	4
第6章	考察	6

## 参考文献

## 第1章 はじめに

我が国の高齢化率は2019年時点で28.4%<sup>1)</sup>となり、身体の健康の一環として、口腔の健康への関心が高まり、口腔管理を行う歯科衛生士への関心も高まっている<sup>2)</sup>。一般歯科診療所の1日の受診患者の3人に1人以上が65歳以上<sup>4)</sup>という割合となり、今後も高齢患者の増加が見込まれ、高齢者の認知機能の低下や認知症の対応は今後より重要性が高まると考えられる。高齢社会に適応する歯科衛生士を育成するために、歯科衛生士教育における認知症患者の対応に関しての講義や実習を取り入れることが重要となる。本研究の目的は、歯科衛生士学生を対象とし、認知症に関する知識の程度とそれに対して影響を及ぼす関連要因について分析し、今後の歯科衛生士教育での認知症の講義や認知症の人への対応に関してどのような講義・実習の展開が必要か検討をすることである。

## 第2章 対象と方法

対象は歯科衛生士学校養成所（大学、短期大学、専門学校）に在籍する、臨床・臨地実習を履修済みもしくは履修中の歯科衛生士学生128人とした。

調査内容は、基本属性（性別、年齢、歯科衛生士学校養成所の種別、祖父母との同居、祖父母との交流頻度、認知症サポーター養成講座の受講経験）、認知症との関わり方（認知症の人との関わり、認知症の人との同居経験、認知症への関心、認知症に関する情報源、認知症に関する情報に接する頻度、認知症に関する講義の受講経験、新オレンジプランという言葉聞いたことがあるか、将来認知症高齢者などの介護に関わる仕事に就く意思）および認知症に関する知識（15項目）である。

## 第3章 分析方法

認知症に関する知識は、15点満点とし「認知症に関する知識得点」（以下、「知識得点」）を求めた。「知識得点」の10点をカットオフ値とし、10点以上を「知識得点上位群」、10点未満を「知識得点下位群」の2群に分けた。「知識得点」の高低と基本属性・関わり方との関連を調べるために、ダミー変数を用いた再カテゴリー化を行い、回答に著しく偏りのある項目、複数回答可能な項目を除いた10項目と、「知識得点上位群」「知識得点下位群」で2×2の $\chi^2$ 検定、期待度数が5未満の場合はFisherの直接確率検定を行った。「知識得点」に影響を与える関連要因の分析では、「知識得点」を従属変数とし、歯科衛生士学校養成所の種別、祖父母との同居・交流頻度、認知症の人との関わり・同居経験、認知症についての関心、認知症に関する情報に接する頻度、認知症に関する講義の受講経験、新オレンジプランという言葉聞いたことがあるか、将来認知症高齢者などの介護に就く意思を独立変数とした重回帰分析を行った。統計処理は、IBM SPSS Statistics (Version 25) を使用し5%を有意水準とした。

## 第4章 倫理的配慮

本研究は、ヘルシンキ宣言を遵守し、日本歯科大学東京短期大学倫理審査委員会の承認（東短倫-253）のもと実施した。本調査は、調査用紙の返送をもって同意を得られたものとした。

## 第5章 結果

調査用紙を回収できた 106 人（回収率 82.8%）から、認知症に関する知識を回答していない 5 人を除外した計 101 人（有効回答率 78.9%）について分析を行った。対象者は全員女性で、平均年齢は、20.4 歳（ $\pm 0.6$ ）であった。歯科衛生士学校養成所の種別では、大学 19 人（18.8%）、短期大学 55 人（54.5%）、専門学校 27 人（26.7%）であった。認知症との関わりがあるは 11 人（10.9%）、過去にあったは 43 人（42.6%）であり、認知症に関する講義の受講経験では、あると回答した者が 83 人（82.2%）であった。将来、認知症高齢者などの介護に関わる仕事に就く意思の有無では、思うは 0 人（0.0%）、どちらかといえば思うは 19 人（18.8%）、どちらかといえば思わないは 64 人（63.4%）思わないは 18 人（17.8%）であった。

「知識得点」の平均点は、11.4 点（ $\pm 2.1$ ）で正答率は 76.0%であった。

対象者の基本属性・関わり方と「知識得点」の関係では、「知識得点」と有意な関連は認められなかったが、「知識得点」に影響を与える関連要因の分析では、将来、認知症高齢者などの介護に関わる仕事に就く意思である、どちらかといえばあると回答した場合（ $\beta = 0.24$ 、 $p < 0.05$ ）に「知識得点」への影響が有意に高かった。（ $R = 0.346$ 、 $R^2 = 0.119$ ）

## 第6章 考察

認知症の人との関わりや認知症についての講義の受講経験と「知識得点」では、有意な関連は認められなかった。将来、認知症高齢者などの介護に関わる仕事に就く意思がある、どちらかといえばあると回答した者は、「知識得点」が高くなることに影響を与えていることが示唆され、将来の就職先で活かされる知識であることが影響していたと考えられる。職域の理解として、歯科衛生士学校養成所での介護に関わる歯科衛生士の紹介や、臨床・臨地実習での実習見学などを積極的に取り入れることが必要であると考えられる。また、就職先の選択時に考慮する労働条件や福利厚生なども影響していることも考えられるため、職域への理解と併せて勤務条件の情報提供が必須である。

今後は、介護に関わる仕事以外の場面においても、歯科衛生士は認知症、軽度認知障害や認知症高齢者を対応する可能性があるため、認知症に関する知識は必須となると考える。

## 参考文献

- 1) 総務省統計局：人口推計 2019年10月1日現在(概算値)  
<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2019np/pdf/gaiyou.pdf>(2020年6月24日アクセス)
- 2) 日本歯科衛生士会 <https://www.jdha.or.jp/aboutdh/> (2020年11月3日アクセス)
- 3) 厚生労働省 平成28年歯科疾患実態調査 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html>(2020年11月3日アクセス)
- 4) 厚生労働省 歯科医師需給問題を取り巻く状況 <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000075061.pdf> (2019年12月19日アクセス)
- 5) 濱元一美, 大岡知子, 柴谷貴子, 祖父江鎮雄, 川上永子: 歯科衛生士と作業療法士における要介護高齢者に対する歯磨き援助を考察—歯科衛生士と作業療法士を目指す両学生に対する調査を基に—. 関西女子短期大学紀要. 2005; 15: 29-43.
- 6) 薄井由枝, 三浦宏子, 玉置 洋: 超高齢社会における歯科口腔保健の今後のニーズと課題に関する歯科有識者への意識調査. 老年歯科医学. 2013; 28(3): 304-309.
- 7) 厚生労働省: 認知症推進総合戦略(新オレンジプラン)～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～(概要) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/nop101.pdf> (2019年12月19日アクセス)
- 8) 厚生労働科学研究費補助金 認知症対策総合研究事業「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」(平成23年度～平成24年度 総合研究報告書)
- 9) 伊賀瀬道也, 小林美恵, 小原克彦, 三木哲郎: 医学部学生の老年医学についての意識調査: 愛媛大学医学部に対するアンケートより. 日本老年医学会雑誌. 2003; 40(1): 377-381.
- 10) 野村秀樹, 内藤道孝, 井口昭久: 高齢者介護および終末期医療に関する医学部新入生への意識調査—他学部新入生との比較—. 日本老年医学会雑誌. 2001; 38(3): 377-381.
- 11) 桂 晶子, 佐藤このみ: 看護大学生が抱く認知症高齢者のイメージ. 宮崎大学看護学部紀要. 2008; 11(1): 49-56.
- 12) 三浦千佳, 曾田信子, 緒形明美, 小林尚子, 他: 認知症サポーターとキャラバンメイトに対する A 大学看護学生の認知度と関心度およびその関連要因. 日本看護医療学会雑誌. 2013; 15(1): 48-62.
- 13) 大谷英子, 松本光子: 老人イメージと形成要因に関する調査研究 - 大学生の老人イメージと生活経験の関連 -. 日本看護研究学会雑誌. 1995; 4(18): 25-38.
- 14) 前田恵利, 谷村千華, 大庭桂子, 野口佳美: 看護学生の将来の高齢者ケア選択への関連要因. 老年看護学. 2009; 13(2): 65-71.
- 15) 久世淳子: 青年(学生)の高齢者イメージに関する一考察. 日本福祉大学情報社会科学論集. 1997; 1: 9-12.
- 16) 久世淳子, 奥村由美子: 学生の認知症に関する知識. 日本福祉大学情報社会科学論集. 2008; 11: 65-69.
- 17) 木村紀子, 石川幸生, 青木 葵: 大学生の抱く認知症高齢者のイメージと関連要因. 東邦学誌. 2013; 42(1): 75-78.
- 18) 西山沙百合, 荒井佐和子, 瀧川真也: 認知症の症状および介護に関する知識と認知症高齢者イメージとの関連. 川崎医療福祉学会誌. 2018; 28(1): 231-239.
- 19) 水主千鶴子: 痴呆性高齢者の問題に対する学生の認識 - 看護学生と大学生の比較 -. 和歌山県立医科大学看護短期大学部紀要. 2004; 7: 57-64.

- 20)荒井佐和子, 沖井明, 片山禎夫, 兒玉憲一: 認知症に関する講義が学生の疾病への態度に与えた変化. 広島大学大学院心理臨床教育研究センター紀要. 2012 ; 11 : 33-28.
- 21)塚本都子: 大学生の認知症高齢者に関する教育に関連した研究動向と人材育成に向けた課題. 日本認知症ケア学会誌. 2017 ; 15(4) : 857-866.
- 22)柴田雄企: 認知症高齢者に対するイメージと認知症についての知識. 短期大学女子学生と女性介護職員の比較.大分県立芸術文化短期大学研究紀要. 2007 ; 45 : 21-28.
- 23)保坂久美子, 袖井孝子: 大学生の老人イメージ - SD 法による分析 - . 社会老年学. 1988 ; 27 : 22-33.
- 24)Mi-HYUN YONG, CHAN-UK YOO, YEONG-AE YAN : Comparison of knowledge of and attitudes toward dementia between health-related and non-health-related university students. J.Phys.Ther.Sci. 2015 ; 27 : 3641-3643.
- 25)木下香織: 「認知症の高齢者のケア」授業前後における看護学生の認知症の高齢者イメージの変化. 新見公立大学紀要. 2016 ; 37 : 35-40.
- 26)草地潤子, 千葉京子: 老年看護学学習過程における学生の認知症高齢者に対するイメージの変化. 本赤十字武蔵野短期大学紀要. 2007 ; 20 : 15-24.
- 27)滝川由美子, 吉本知恵, 横河絹絵: 看護学生の高齢者イメージの変化 - 老年看護学概論の授業前・後の比較 - . 香川県立医療短期大学紀要. 1999 ; 1:51-60.
- 28)金高閻, 黒田研二: 認知症の人に対する態度に関する研究: 認知症の人に対する態度尺度の開発を通して. 社会医学研究. 2011 ; 28(1) : 43-56.
- 29)杉山京, 川西美里, 中尾竜二, 澤田陽一, 桐野匡史, 竹本与志人: 地域住民における認知症の人に対する態度と認知症の知識量との関連. 老年精神医学雑誌. 2014 ; 25 : 556-565.
- 30)藤原和彦,小松洋平, 奥永盛大, 上城憲司: 高校生における認知症の知識と態度に関する予備的研究. 医学と生物学. 2013 ; 157(6-2) : 1101-1106.
- 31)富塚美和, 門間晶子, 尾崎伊都子: 認知症に対する中高年期男女の態度と知識の実態および予防行動実行に関する要因. 日本看護研究学会誌. 2018 ; 41(5) : 899-910.
- 32)森下久美, 長田久雄: 大学生の認知症の人への態度に関連する要因の検討ー非医療福祉系先行の学生に着目してー. 老年学雑誌. 2019 ; 10 : 114-126.
- 33)厚生労働省: 平成 30 年衛生行政報告例 (就業医療関係者) の概況, <https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/18/dl/kekka2.pdf> (2020年5月7日アクセス)
- 34) 歯科衛生士業務における歯科医師等の指示に関する規定 (歯科衛生士法第 13 条の 2~第 13 条の 4)
- 35) 日高勝美: 超高齢社会に求められる歯科衛生士のキャリア. 口補綴会誌. 2014 ; 6(3) : 279-284.
- 36)公益社団法人日本歯科衛生士会: 第 9 回歯科衛生士の勤務実態調査報告書, 2020.
- 37)長谷川徹, 金山圭一, 森永啓嗣, 竹内浩子, 木村洋子, 北後光信, 澁谷俊明: 歯科衛生士専門学校生におけるキャリア・アンカーについてのアンケート調査. 岐阜歯科学会雑誌. 2019 ; 46(1) : 23-26.
- 38)山田隆文: 日本の歯科衛生士の現状と未来. 目白大学短期大学部研究紀要第 56 号. 2020 ; 56 : 57-70.
- 39)全国歯科衛生士教育協議会: 養成校一覧, <http://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/school/index.html> (2020年11月3日アクセス)